

樹心（人となる）

# 菩提樹（大谷中学校通信）

2014年度9月特別号（演劇コンクール）

演劇コンクールの最優秀賞はⅢ年1組！



【最優秀賞】Ⅲ年1組



【優秀賞】Ⅲ年2組



【奨励賞】Ⅱ年3組

9月12日(金)と13日(土)の2日間、今年度の演劇コンクールが行われました。1学期末からクラスの仲間が協力し時間をかけて作り上げたものをしっかり発表してくれました。上記に示したとおり最優秀賞は、Ⅲ年1組が受賞しましたが、その他のクラスの演劇も見事なものばかりでした。簡単に紹介したいと思います。

開演に先立って太田学校長から「会場内の人々に伝わる劇を、失敗を恐れず思い切りしてほしい」という言葉が述べられました。Ⅰ年生の劇はその言葉をしっかり受け止めた劇ばかりでした。Ⅰ年1組『のび太と怪獣』では、日頃からいじめられている「のび太」の思いが、自分の描いた絵の怪獣に乗り移り、町で暴れます。結果として「しずかちゃん」を傷つけると同時に自らも落ち込ませることになります。一人ひとりが自分の役をしっかりと果たしていましたし、音響も劇に合った曲選びができていました。朝1番にもかかわらず大きな声で語ってくれました。Ⅰ年2組『デゴイチ』は、ラムネのある駄菓子屋を舞台に、そこに集まる3人の少年少女の友情を描いた劇でした。テンポも良く劇らしい劇でした。役者は多い台詞をしっかりと覚えており観客にしっかり伝わるように表現してくれました。Ⅰ年3組『番町皿屋敷』は時代劇の怪談物として有名なものを題材に、お菊さんを菊蔵という男に置き換えていました。時代劇はとても難しいと思いますが、果敢に挑戦してくれました。役者の話し方や演技の一つ一つが本当に丁寧でしたし、背景画、着物の着こ

なしもきちんとできており、1年生とは思えないほど上手でした。また講堂中央に井戸を設置し、そこから幽霊を出す効果も実に見事でした。

午後からはⅡ年生の発表でした。各クラスとも演劇の他に歌や踊りを交え、自分達で作上げたものを自分たち自身が楽しんで活動している姿が印象的でした。**Ⅱ年1組『DANCING ～みんなと一緒になら』**は、男女9人がお互いに反発ばかりしてしまい、なかなかまとまってダンスを踊ることができません。その中の3人の陰の努力、一組の男女の働きかけから全員がまとまるようになりダンスを成功させるというものです。最初のぎこちない動きから次第にダンスが上手になっていく様子を表すのは難しいと思いましたが、最後は9人がピタリと上手に踊れたところは見事でした。**Ⅱ年3組『現代版桃太郎風劇』**は、「桃太郎」という誰もが知っている話を現代風にアレンジした劇でした。「川に洗濯」を洗濯機に、「鬼」をウルトラマンにするなど、観客を飽きさせない見事なストーリーであり、それを演ずる役者一人ひとりの、台詞に合わせた細かい動きも印象的でした。衣装も凝っており、クラス全員で取り組んでいる様子が伺えました。**Ⅱ年2組『Best Friends』**は、クラスで人気者の女の子を中心に、以前彼女をいじめていた男の子、彼女の人気に嫉妬する同級生がクラスのみみんなのおかげで仲間として認められる存在になっていく姿を描いてくれました。カラオケでお互いの気持ちが打ち解けられるという現代の若者を象徴する内容を取り入れたところに工夫を感じました。また、場面転換の素早さも見事でした。

2日目はⅢ年生の発表でした。過去2回の経験をもとに、演技力、背景画、音響効果など全ての面において洗練されていました。舞台上に登場する役者だけでなくクラス全員が自分の役割を理解し、その役割を各人がしっかり果たしていたからでしょう。**Ⅲ年3組『Arcade History』**は、25年前の遺恨ややくざからの邪魔が入る中、活気がなくなった商店街を数人の若者達が再び盛り上げようと協力した結果、盛り上がりを取り戻すまでを描いたものでした。普通に見える演技の中にも観客に喜んでもらえるような言動、歌あり踊りありで飽きさせない展開には3年生らしい工夫が凝らされていました。**Ⅲ年2組『青空への手紙～君との約束～』**は、「空」を甲子園に連れて行ってやろうとしていた「青」が弟を助けるために事故に遭ってしまいます。その青の身体を心配する空と野球部の仲間は青の夢をかなえようとするのですが、結局夢と散ってしまいます。涙と感動の青春ドラマを描いてくれました。舞台設定をする際、団結力によって多くのメンバーが素早く準備していました。また、舞台上では台詞を語る人以外の人の動きが素晴らしいと感じました。声の大きさ、元気さ、やる気においてもⅠⅡ年生の参考になったはずです。**Ⅲ年1組『弱虫王子と眠り姫～We remember beautiful rain』**は、「現在」「10年前」「10年前の演劇」という場が次々に展開され、劇の構造が2重3重となっており極めて凝ったものでした。記憶が1日しか持たない少女のために、それぞれ事情を抱えていながらも仲間達が演劇をします。しかし、それが彼女の記憶を完全に失うとは知らなかったのです。夏休み前から多くの道具類が丁寧に作られていましたし、音響効果についても劇の内容や台詞にピタリと合っていました。観客を感動させる内容も含め見事な演劇でした。 (大橋)